

2025 年度前期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年

教育学部・多文化グローバル教育学プログラム・1年

(1) START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

私はこのプログラムに参加して、学習面だけでなく生活の中全てにおいて日本との文化の違いを肌で感じる事ができた。毎日食べるご飯、移動中窓の外に見える景色などこれまで経験したことのないことがたくさんあり、すべてが新鮮だった。その分現地で生活に慣れるのに時間がかかったが、それも良い経験になったと思う。これから先の留学で他の文化に触れ、理解することへの意欲を掻き立てられた大きな意義のある一歩になった。

また、私は今回の留学で積極性の大切さを学んだ。現地での活動では話を聞いた後に質問はないかと聞かれたり学生側から何か意見はないかと求められたりする場面が多々あった。その時に、英語力に自信がなかったり知識不足だったりしたことも一つの理由だが自分たちから質問や意見をあまり出すことができずに困らせてしまった。これから長期留学に向けて自分の英語力を磨くことはもちろん、質問や意見を自分から出せるように授業の中で積極性を培っていきたい。

(2) プログラム内容についての全体的な感想

渡航前は同じプログラムのメンバーに知り合いが少なく、わからないことも多くて不安だった。しかし実際行ってみると毎日が新しい発見の連続で本当に充実した 11 日間だった。今回のプログラムのテーマであった持続可能性についても、はじめはほとんど知識がなかったが講義を受けたりフィールドワークに行ったりする中で理解を深めることができ、集大成である最終プレゼンでは自分なりに持続可能性について考えて調べ、発表することができた。また、自分は海外に行ったことはあったがアメリカへ行くのは初めてだったので、日本では感じる事の出来ない広大な自然を楽しむことができ、カヌーやキャンプファイヤーなど貴重な経験をすることができた。最初は話すときにぎこちなかったメンバーとも仲良くなることができ、最高の思い出を作ることができたと思う。現地の学生と交流する機会がより多ければよかったと思うが、全体的にとっても満足のいく留学だった。

(3) 今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

私は今回の留学プログラムに参加するにあたって、プログラムのテーマについての予備知識がほとんどないまま現地へ渡航した。その分新しい発見もあって新鮮だったが、知識がないため英語での説明を理解するのに時間がかかり、質問なども考えることができなかった。これから渡航する後輩には、事前の準備の段階で班のメンバーなどとテーマについて調べ、予備知識を得た後に渡航して実践的な学びをすることをお勧めする。そうすることで渡航して講義や説明を受けた時に情報が入ってきやすいと思う。

また、初めての海外留学の人も多く気候や持っていくもの、両替など一人で準備することに不安を感じる人も多いと思う。渡航前に対面で同じプログラムのメンバーで会ったときなどに仲良くなっておき、準備の時に情報共有しながら一緒に用意できると安心だと思う。私は事前に仲良くなった友達が少なく仲良くなったのが遅かったため準備が不安だったこともあるし、渡航が終わるときに名残惜しさを感じ、もっと早く仲良くなっておけばよかったと感じた。後輩には最初から仲間と渡航を楽しめるようにするためにも早めにメンバーと仲良くなってほしい。

2025 年度前期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	工学部・第三類・1年
<p>(1) START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか</p>	
<p>私は START プログラムを通して、文化の違いや、SDGs の広まり方の違いを身に染みて感じる事ができた。まず食文化に関しては、朝ごはんにはハンバーガーとポテトがあり、大学の学食はすべてビュッフェ形式というのが日本と異なりすぎて面白いなと感じた。SDGs は、アメリカはほとんどのお店でビニール袋が無料で配布されており、SDGs の取り組みは日本の方が進んでいると感じたが、アメリカには多くの公共施設に給水所があり、街中でほとんどの人が My ボトルを持って歩いていた点で、ペットボトルの削減に関しては日本より進んでいるなど学んだ。実際、私は留学中一回も飲み物を買わずとも給水所の水で過ごせた。また、今回の留学のメインテーマでもあったサステナビリティについて、多くの施設を訪れ、様々な視点から考える事ができた。例えば、魚の生態と森林火災、木のつながりに関して一見つながっていないように感じて、よく考えるとその中でのサイクルが存在していることを学んだ。何事も、一つの見方にとらわれず、複数の視点を持つことが大事だと知った。</p>	
<p>(2) プログラム内容についての全体的な感想</p>	
<p>今回の START プログラムでは、フィールドワークがとても多く、自然や生態系を身近に感じて学ぶ機会が多かったのがよかった。実際に行き、見て、触って学ぶ事ができた。また、アイダホの人たちがとても優しく、印象に残っている。朝校内をジョグしていると、散歩をしている人に fight や good morning と言ってもらったことがうれしかった。大学の先生方も、私の拙い英語を理解しようとしてくださったのが嬉しかった。一方で、話したい事を瞬時に英語にできず、自らなかなか話せなかった点が悔しかった。間違ってもチャレンジするべきだったと思う。でも、この期間に、色々な人と会話をしたり、場所を訪れたりしたことで、間違いなく新たな視点を得ることができ、成長できたと思う。また、今後、海外留学をもっと長期でやってみたいという強い気持ちが芽生えた。</p> <p>一方で、今回のプログラムは、現地在夏休みという事もあって、現地の大学生と話したり、議論したりする機会が少なかったことが少し残念だった。先生方と話したのはもちろん楽しかったが、同年代の人ともっと話せたらより良い留学になったと思う。</p>	
<p>(3) 今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス</p>	
<p>在学中の留学を考えている人はもちろん、海外に少しでも興味のある人は参加するべきだと思う。もちろん留学を通して、英語力や、歴史などの知識を得ることもできますが、その国の文化や生活に触れることはとても楽しいです！行く際のアドバイスとしては、</p>	

自ら話しかけることにためらわないでほしいと思う。自分の英語に自信がなかったり、話しかけることに緊張を感じたりする人も、**Try&Error** の精神でたくさん話しかける努力をしてほしい。意外と通じるし、会話が続くことは自分の自信にもつながると思う。

また、お土産に関しては、空港や観光スポットで買うのもいいけれど、地元の人が行くようなスーパーで買うのがおすすめです！安くでたくさん手に入ります！留学に行く前（余裕を持って）ちゃんと準備をしましょう。物だけでなく、気候や留学先で当たり前のことなども調べておくといいです。例えば、アメリカでは講義中や講義が終わった後に何か質問はある？と聞かれることが多いという事を知っておこう。日本ではこういった場面で誰も何も言わないことが多いが、アメリカでは、質問が飛び交うのが当たり前だった。アイダホの先生方も戸惑っていたし、何も質問できない自分がもどかしかった。なので、講義に参加する際は、何か質問をするという意識を持つように意識したほうがいいです！

2025 年度前期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年

文学部・人文学科・1年

(1) START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

高校までの授業や普通の大学の授業では学んだことのない、持続可能性について勉強することができた。一口に持続可能性といっても、この単語には環境的持続可能性、社会的持続可能性、経済的持続可能性の3つの面があるが、今回のプログラムの講義やフィールドワークでは主に環境的側面と社会的側面について学習できた。具体的には、森林と山火事について実際に機械を用いて観測したり模型を燃やす実験をしたりまたサケやハチ、地元の植物の保全施設や活動を見学させてもらったり、自ら作った陶芸作品でお庭を装飾したりすることでそれらの学んだことをほかの人へ伝える活動も行った。文学部に所属する私は、環境や自然についての知識はあまりなく、どれもとても新鮮な学びであった。しかし専門知識がないからこそ、同じ内容を座学で学習するよりも、実際に現地へ出向いて自分の目で確認したり、専門家に直接聞いたり、自分の手で感じながら自然を保護したりしたこのプログラムの学習方法は、とても好奇心を刺激し理解を助けてくれるものであった。また、社会的側面については具体的に、ネズパース族が実際に暮らしていた場所での学習や、日系アメリカ人収容所の歴史についての講義を通して学ぶことができた。特に印象に残ったのは、クースキア収容所の跡地に訪れたときに先生方が投げかけた、「クースキア収容所は保存されるべきであったか？誰によってその決断が下されるべきか？」という問いである。私は、「もちろん保存されるべきであり、捕虜となった日本人を考慮して日本政府が決めるべき」だと思った。しかし、この収容所の土地はまずアメリカのものであり、収容所が建てられる前はネイティブアメリカンのものであったこと、捕虜になった方たちは自分たちの暗い歴史を語りたがらなかったことなども考慮すべきだという先生の言葉に、持続可能性の答えの見つからなさをものすごく感じた。結論が出ないモヤモヤする議題ではあるものの、多くの立場について考えなければならない重要な物事を解決するためにどうしたらよいか、という点においてとてもヒントをもらったと思う。答えのある議題だけを勉強してきた私にとっては、これからの問題解決に取り組む姿勢を変えるきっかけになった。

今後は、このプログラムで得た「多様な立場を考慮する姿勢」を、国際交流の場で活かしたい。今回学んだように、一つの問題には単純な答えがなく、背景には複数の価値観や歴史があることを意識することが重要だと思う。将来、留学生との交流や国際プログラムに関わる際には、相手の文化や考え方を尊重しながら、共に持続可能な社会について考えられる人材になりたい。そのために、学内外の国際交流イベントや海外プログラムに積極的に参加し、今回の経験で得た視点を共有していきたい。

(2) プログラム内容についての全体的な感想

今回の START プログラムに参加する前は、「英語だけの環境で過ごせる」と大きな期待を抱いていた。しかし、実際には生徒同士の会話はほとんど日本語で行われており、プログラムが始まって最初の数日間は、そのギャップに少し困惑してしまった。それでも、アイダホ大学で受けた講義やフィールドワークは、広島大学では体験できない貴重なものであり、先生方も熱意をもって接してくださった。アイダホ大学側のおもてなし精神には心から感謝している。

一方で、先生方のお話を完全に理解できず、質問もあまりできなかったことには申し訳なさを感じた。事前に詳細なスケジュールや講義内容を得られなかったこともあり、仕方ない部分もあったが、それでももっと準備をしておくべきだったと強く反省している。

学習面以外では、先生方がさまざまな楽しいアクティビティを用意してくださり、とても充実した 10 日間を過ごすことができた。しかし、その一方で「高い費用を払ってここに来ているのに、思ったほど英語を話していないし、講義について質問もできないまま、遊んでしまってよいのだろうか」という思いを、プログラム中ずっと抱えていた。

今後、さらに良いプログラムにするためには、英会話を徹底する仕組みや、ディスカッションの時間を増やすこと、そして事前学習をより充実させることが必要だと感じる。

(3) 今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

事前学習をしっかりしておくことが大事だと思う。多少億劫でも、海外の大学で講義を受けたり先生と意見を交わしたりすることはとても貴重な経験になり自信にも繋がるので、予備知識をつけたり自分の意見をしっかり持つておくことよい。また、英語で実際に使いたいフレーズや話してみたいトピックを用意しておくのもいいと思う。私はお店に行ったときに店員さんと会話したりカフェでおすすみを聞いたり積極的に余談をしたところ、英語で知らない人と会話を楽しめるとすごく嬉しいし自信につながるということに気づいた。あと、1 番後悔したことは持って行った服が全部薄着すぎたということだ。事前に行く土地の気候を調べることは本当に大事だと思う。飛行機の中もとても寒いのでパーカーは持っていくべきだ。実際に私は日本の夏と同じような服でいったので、寒すぎてスウェットを買う羽目になった。体調も崩しかけたので本当に気を付けたい。